

緑生瓦版

2011.11.01
第三十五号

身近な自然再考

札幌から東京本社勤務に戻り二年、関東の暑さにもボチボチ慣れ、生物の生息環境や状況についても概ね理解しつつあると感じています。最近、家から徒歩で行ける高尾山塊で身近な生物を観察しており、イヌブナの大木を一本発見しました。今までに何度歩いても、北高尾尾根周辺には無いと勝手に思いこんでいたのが驚きです。動物ばかりを探し歩き、植物に目を向けていなかったことを痛感しました。

実際、スギ植林などと侮っていたのは事実ですが、林地の間にバッチ状に残る落葉樹の林やモミ林などが以外に多いことに気づかされる日々であります。今後も新たな発見を求めて、近所の自然探訪をと考えています。

調査部
伊藤 彰朗

緑生研究所って、どんな会社…?

～ 戦略的環境アセスメントの巻 ～

「戦略的環境アセスメント」とは…?

個別の事業実施に先立つ「戦略的な意志決定段階」、すなわち、個別の事業の計画・実施に枠組みを与えることになる計画（上位計画）や政策を対象とする環境アセスメントで、2つの意義があるとされています。ひとつは社会の持続可能な発展を達成するために、環境に影響を与えると考えられるあらゆる政策や計画等の策定・実施にあたって、環境への配慮を意志決定に統合することで、もう一つは事業の実施段階での事業アセスメントの限界を補うことです。

実際に戦略的環境アセスメントを実施する際には、以下に示す3つの考え方が基本となります。

- ・計画を策定する者が実施する。
- ・一般国民や専門家、環境担当行政機関による意見提出などの関与が必要である。
- ・複数案の比較評価が必要である。

SEAの優れている点は…?

事業の実施段階では上位計画等で、すでに事業の枠組み（実施方針、位置・規模など）が決定されているため、事業アセスメントでは環境配慮の検討の幅が限られてしまいます。戦略的環境アセスメントでは、この限界を補完することが期待されています。実際に指摘されている事業アセスメントの課題としては、以下のようものがあげられます。

- ・事業アセスメントが実施される段階では、すでに様々意志決定が行われており、柔軟な対応が困難である。
- ・事業アセスメントでは、個別の事業による影響が累積して発生する問題に対応することが困難である。
- ・経済全体の持続可能性の確保といった新しい問題への対応が困難である。

事業アセスメントと呼ばれる環境影響評価のほかに、1990年ごろから注目されるようになり、環境基本計画策定や総合研究会による検討を経て、2007年4月に導入ガイドラインが制定された制度があります。

「戦略的環境アセスメント（SEA）」（＝Strategic Environmental Assessment）と言われるもので、すでにご存じの方も多いことと思います。今回はその特徴や事業アセスとの違いなど、概要についてお話しさせていただきます。（調査部 坪山聡）

事業アセスメントとの違いは…?

一番大きな違いは、環境影響評価が実施される時期にあります。事業アセスメントは具体的な実施計画などが明確になった段階（事業実施直前）で行われますが、戦略的環境アセスメントは、これから実施場所や規模・構造などについて計画を立てようという段階で実施されます。つまり、戦略的環境アセスメントは事業アセスメントよりも早い時期（段階）に実施されると言うことになります。そのため調査・予測・評価の対象も違ってきます。事業アセスメントでは事業の設計や供用、環境保全対策といった具体的なものであるのに対して、戦略的環境アセスメントでは事業の方向性や必要性といった抽象的なものが対象となります。

SEAの今後の課題…

ガイドラインの策定により埼玉県、東京都、千葉県、広島市、京都市などが戦略的環境アセスメント制度を導入しており、すでに幾つかの実施事例も紹介されています。ただし、まだまだ試行錯誤の段階であり、導入を検討はしているものの、最終的な決定には至っていない地方自治体も数多くみられます。主な課題としては、以下のようなものがあり、今後、SEAが有効に機能するためには、早急に解決する必要があると思われます。

- ・事業の実施にあたり、手続きに時間や費用が余計にかかるのではないかと不安。
- ・事業計画の具体性が低いため、環境への影響を把握することが難しい。
- ・複数案を検討する際の、ゼロオプション（何もしない案）の取り扱い方が明確になっていない。

写真だより



マヒワ *Carduelis spinus*

日本では冬季に越冬のため飛来（冬鳥）し、北海道や本州中部以北で繁殖します。平地から山地にかけての林縁などに生息し、冬季は群れで行動します。春先などは、特に大きな群れをつくり、数千羽の群れとなって行動することもあります。植物食で、ダケカンバやハンノキなどの果実をはじめ、植物の種子や芽などを食べます。

コミミズク *Asio flammeus*

日本では冬季に越冬のため全国的に飛来します。生息地としては、ヨシ原などの水辺の草原や湿地等を好み、小規模な群れを形成し集団で眠ります。近年はヨシ原などの草地の減少により生息地の減少が危惧されています。フクロウ類ということもあり、主に夜行性でネズミなどを主食としています。



アンケートのお願い！

Q. 「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えてください。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名：

所属：

氏名：

ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、アンケートの回答は、緑生研究所（坪山）宛に FAX (042-487-4334) でお願いたします。

編集後記

お読みいただき、ありがとうございます。第三十六号は、年明け平成二十四年一月一日の発行を予定しています。新年号では特集はお休みいたしますが、新年に向けての当社の揺るぎない強い決意をお伝えいたします。

日曜の朝、テレビを付ける。「仮面ライダー」の文字が目に見え込んできました。懐かしいと思う間もなく、驚きの連続です。なんとバットではなく、宇宙ロケットがモチーフになっている。びっくりです。主人公は高校生で、仮面ライダー部に所属している。気づくといつも採石場で戦っていた時代しか知らない私にとって、大変な事件です。仮面ライダーはいつどこへ向かうとしておられるのでしょうか？

コラム

